# 古今和歌六帖標注

四

古今和歌六帖第四

戀

哀　かなしび　夏　おもひげ
うらゝ　なぶり　うらゝ　みぞ
なぐさ　なぶりの思ひ
祝　ざふの思ひ
いさゝひ　まこのな　法花　かざし
別
つれ　ぬさ　たむけ　たび
かれひ　ぬさ
せどう　ぬさ　大那ぶ弱　古き也弱

友聲文庫
松井文庫

新後拾遺五　素性法師

[illegible]

玉葉戀四　[illegible]

いさやまさ[illegible]

源氏藤裏葉巻云世のたのしきもありぬべからんなるべし云々

万葉四　笠金村

今夜之早開者為便乎無三秋百夜乎願鶴鴨」

土佐日記

[illegible]

漢書司馬遷傳云身非木石獨與法

万四　世の中[illegible]

古憲三[illegible]　寛　新万

[illegible]

万七　家持

[illegible]

同四　家持

[illegible]

後愚六東歌　續後愚三伊勢　古今集

[illegible]

伊

[illegible]

さらし上の大娘　成本

大伴宿禰磨呂

[illegible]

伊勢

[illegible]

このさのらう女　成本

万四　笠女郎　新撰

[illegible]

同　家持

[illegible]



吏為伍

雑阿含經第廿一云無心如木石」

拾遺物名　[illegible]

秋風のよもの山よりあなたのそ[illegible]

夫木雑一雲　藤原資光

[illegible]

後撰戀六　[illegible]

[illegible]

世々万葉ハ事苦兼とあてコトモツケンとよめるハ[illegible]

万葉四

好渡人者午毋有云乎何時間曽毛

吾戀雨来

同上

[illegible]

後愚三源[illegible]　古今能宣集

[illegible]

童

[illegible]

古憲三[illegible]

[illegible]

同四

[illegible]

万上　古今集

[illegible]

人　成本

同　拾遺五人麻呂　家

[illegible]

竹取三已出

[illegible]

万上三

[illegible]

万葉十二
不聞而戀渡等母志哉弥日異者思益等母

万四笠女郎
我命いけ〳〵んのぎり子きめやいや日ごとに思ひまさるとも

かさのふう女

同
玉地の神もあさくらをいたくいたくて系おもふ思ひ妻恋するさめ

なのくさの系女 傳未詳

同
たぐ〻まてこそたまきる命をむふ系こひやまん

女 相

同
系ちあんそれもおなじ系何もちん人めひくぎ〻ふさ〻ひがをん

同 續古戀
思ひくるくるびの まをあ〻くに仁のよすぐあくあひくるのけん

古戀ふるぶ
系ちしるを許あづけきんくらのをぞきあをぞたぐよいふべうくる

万四家持
あひくるをはいくはもへめといふぎろくる日をおもふあるくも

同
系ちくるをはあぎ系んを思ぶいろく系きまるくけを

一日々二

毛詩國風未茵篇云彼采艾兮一日不見如三歳兮

新撰万葉上戀
人緒念心之爛者身緒曽焼烟立砬者不見沼物轉

左詩云胸中刀火例焼身寸府心灰不聚烟

遊仙窟云未曽飲炭腹熱如焼不憶吞刀腸如割

同
くるの花も出つ〻くあまくらびあれいるどもねいりやくがおと

同十三
系ひやくもらがわざをそ〻へやるをくるこふもこどのこころつの〻

同十一
あひくるをはをきやへめるいをくるみ系や志ろ思ふ思結るまて

同
人もなくふるすふあるく人ぬめぢやこをぢ系ちよきをん

同 古歌人丸集
なぐさむる系なくてあ〻系ちよ深くん月よ日さて

要文 或本

古戀 家
系ちくるをはをきぬ山ふるよあ〻ぬくふなぢる心のまぢひけぬべよ

家
系ちくるをはをあ〻ぬくぬいつくろれぞ

同 玉戀一
あちやまぬ山のてをたちるつやをきあをくるをそ系ちよ

同 新古一
思ひ出の山下路ついきまむるのこころくづけ〻人ぞちひ〻き

かさのらく女 或本

万葉十六
吾門之榎實毛利喫百千鳥千鳥者雖來君曽不來座

契沖云ふるをハ百つゐの義なり
法ををさ〻ていつるこ爲あるとふ
説ハ悪〻後のなり

万葉四　笠女郎
念西死為物爾有麻世波千遍曽弖
者死変益」
古今戀一　よしのちぶ
こころがへ　せるものゆゑにものがかさひは
ゆゑーきものと人よあるーとん
古事記神代巻云次天之水分神割
麻理次國水分神云云
傳云神名式云大和國吉野郡宇陀
郡宇太山邊都部祁葛上郡葛木坐
どふおの〳〵水分神社ありみくまりは
社ハこかーこふおのくあり実ハみ
くまりとふべきを後ようこもりと
ゑまれるく
枕草紙ハ神ハみこもりの神とこゝ
ろやくようとあへあやまれりとこゝ
古今戀四　よしのちぶ
いせのあまをぶねおもかるかづくてふ
こゝるもて人をあくとーしーる」
ふ物をこゝ此うと万葉ハ水泳とあり
てミナソコとよめり泳をそことよまゝ
おぼつかなーこゝ契冲のミナクルと
よめるハ後ふべー泳泳字体よく似

万十一　拾遺雲　人丸集
袁出るふ志ぬるものーあ〳〵まをぐみ
ぶびぞ万れハ志よへ〳〵ほ
かゝ志ひ
かゝ袁ハくるーきものあとみこもりに神ようれへてもせてーがあ
和
ふもりの神ようれへんかく計袁ーき人をこゝとおもへば
河　藻裏葉　和
みこもりに神ぬ河ぶ袁ぬ袁ぬ袁ぬ袁ぬもろこひよ形を
ふこもりの神ようひてもぬてーが袁つーあらぬ伊のれつ〳〵ぞも
万十　赤人集
さゝるぬ袁ぬーはるまでるふ袁やまぶ片袁ーて
同十　万
袁ん〳〵ごろまるる思ひすーるーはもこがんーいけるともなふーき
同　新勅意四よしのぶ　夫雑九貝人危　古来人集
伊勢ぬあまの釣ぶねかづくてふ袍の見ぬる思ひて
同　夫雑九貝人危
ふのあるぬ形ぬまぶ袁ぬいろぶひのなぶ片袁ぬ袁ぬ袁ぬん
同四
思ひやるるい志ぬどるこひぬそこるぬ袁ぬ袁ぬる

たれバ志ゝこハ張〳〵てあのほと出
せるなるべー」
万葉ふ片埦とあるようーしこふかゝ
志ひとあるハ誤まりかゝ志ひてハそ
とひひりけたるせんあー片思を片埦
にひかけーるゝ和名抄瓦器類ふ
説文云盌　辨色立成云末利俗云毛比　小盂也と
ハ也」
袖中抄巻一云わふゝ識の鬼ゝハ
あゝびゝろゝーとふ詞ゝもこゝとふも
ゝろゝーとふ詞あゝ云」
万葉十五
於毛比都追奴礼婆可毛等奈奴婆
多麻能比等欲毛意知受伊米爾之
見由流」
躬恒集
おぼつかなもあふようもーまぶ袍ハ
ゝゝのたゝちハ万れやあゝ〳〵」
万葉十五
安加祢佐須比流波毛能毛比奴婆
多麻乃欲流波須我良爾祢乃未之
奈加由

万二　天武天皇皇子
ゝ袍ゝもゝやゝゝ袁ゝゝ袁ゝゝと形ゝゝゝもおゝまゝゝゝと形ゝ袁ゝゝけゝ
小町
古意二　家ツ
思ひつゝぬるゝだゝやゝゝゝ

詞花戀上　よゝ人さゝば

こひぬれば　ものもひてゝ　ものもいはんと　思へども
こゝろよりゝ　ほかなる　ものは　なしとぞ　思ふ

後撰哀傷

やどこれば　袖もぬれぬ　ものもいはで
ゆゝしかりし　わかれぞ　ものは　思ふ

古今戀二　小野小町

いとゞあはで　ぬる夜の　ふけぬれば
こゝろ　ひとつを　たのみ　てぞ　ぬる

古今戀三　大藏卿有家

袖ぬれて　ぬる夜の　ゆめは　さめぬれど
あはぬ　ものゆへ　ぬる夢の　ゆめ　なりけり

同二　寛　新万　家

俤　ぬる夢　ばかり　見ひて　ゆめ　まんと　思へども
ぬる夢　てふ　ばかり　人だのめ　なる

齋宮

同三　よゝ人　伊　古本柴立集

きゝ　やこゝ　ものや　わりなん　おもほえず　夢ちうつゝ　袖てのいとて

なりひら

同　伊　家

かきくらす　心のやみに　まどひぬる　夢ちうつゝ　とは　ゆめ　なりけり

くゝ人　ものゝ　或本

万上　夫雜八　古本人丸集

つれなきも　つれなかりて　ものゝ　ふる　ものゝ　白妙の　袖ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ

同　同　古本人丸集

我　袖ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ

同　古本人丸集　小万　八古

夢のまに　ふれぬ　ものゝ　ふる　ものゝ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ



續古今戀三　大藏卿有家

袖ぬれて　ぬる夢の　ゆめは　さめぬれど
あはぬ　ものゆへ　ぬる夢の　ゆめ　なりけり

古憲三　小町　家

ゆめ　ぬる　ものゆへ　ぬる夢の　ゆめ　なりけり

同　小町　家

かぎりなき　思ひの　まゝに　ふる　ものゆへ　ぬる夢の　ゆめ　なりけり

同憲二　よゝ人　ものゝ　ふる　ものゝ　ぬる夢の　ゆめ　なりけり

ものゝ　ふる　ものゝ　ぬる夢の　ゆめ　なりけり

いとゝ　袖ぬれ　ぬる夢の　ゆめ　なりけり

きんげいはる

古憲五

春　ものゝ　ぬる夢の　ゆめ　なりけり

源雲文　或本

同　物名　水苔

ぬる夢の　ゆめ　なりけり　ぬる夢の　ゆめ　なりけり

世の中　袖ぬれ　ぬる夢の　ゆめ　なりけり

新拾憲五　深養父

ものゝ　思ひ　ぬる夢の　ゆめ　なりけり

契冲云かも　ぬるぐさハ和名抄水菜類云辨色立成云水苔一名河苔和名加波奈

延喜式鎮火祭祝詞云水神匏川菜埴山姫四種物乎生給比云云此二書を引合せて案するに云云かもぬるぐさ

毛詩國風終風篇云寤言未寐願言則嚏

契冲云ふる時ハよるもいねぬるなり

古今戀三　業平朝臣

[illegible]

家

[illegible]

後撰戀一　よゝ人〳〵び

[illegible]

後憲三のごと後

[illegible]

[illegible]

後憲三よゝ人〳〵び

[illegible]

伊勢

同憲四　家　業平重出

[illegible]

古憲三　[illegible]

要ら

四之五

新古今雜下　權中納言資実

[illegible]

風雅雜下　大江千里

[illegible]

後撰夏　よゝ人〳〵び

[illegible]

[illegible]

新千憲三　家　もの家　を新家

[illegible]

みつね

後雜二　家　おもゝび家　だふ後家

[illegible]

忠峯

古憲三　家

[illegible]

[illegible]

万七　夫雜五嶋よゝ人〳〵び　[illegible]

[illegible]

おもこのげ

伊

[illegible]

なりひら

[illegible]

さかよしの良女

真淵云此ゝ万葉めきて万葉ゝ[illegible]

[illegible]

長門　さ松葉集

[illegible]

めをさまして　をまとう月をあがむれば面影のみ見えくるつる

かさの女郎

万三新千歳三　夫雜四原
陸奥のまのこのやふさとなれどおもひげすもゝ面といふ物を

古墨滅貫之
つゝ〻時ハ恋つゝをれど夕さよ妹うらゝかに面影よこす

万十一　夫雜一下　古来人麿集
こも
ゆふ月よかゞよふ雲ハ妹のいもゝ面影にかゝりおぼゆ

同
万十
海あの底ほうへて恋まつとあるゝん面影よこす

拾雜春　亭家
さうざゝん物ハ桜花おとつげのゝまぢ知ゝ面ゝむ

古憲四伊勢　家
ゆふすてもゝ面ハみゝど新面影よさづる多あれど

万古家

返

いせ

家
面影ゝ面ゝつゝ立てもあえずやハ山ゝ見ゝさびれゝしとのな



万葉十七　坂上郎女
伊麻能能菅等古非之久伎美我於毛
保要流伊可爾加母世牟須流須遍
乃奈佐

續千載戀四　貫之
あぢきなくもとゝ人をこいるよりて
うつるまさへもおつるあゝぐら

万葉九長歌
他妻爾吾毛交牟吾妻爾他毛言問
此山乎牛掃神之従來不禁行事叙

家
心やのゝて　こゝ〻ゝきあつて名きいさづるよ　こつゝけもせぐく

万四笠女郎　第五重出
ゆゝ　猪名野　見ひまさる　そゝ人ハさゝゝ　新おどのげよゝして

さの女郎家持
うさの女郎家持も

同　家持
かくだとう面影よ　おる色えぶいうよこのとさん人あ　えげくて

うて　泳

新後拾憲三　よゝ人ゝ
うゝ　ぬるよとうあゝ人を　寝ていてうつゝまさへもおつる　浪この

おまち

拾憲四　夫雜七　父伊勢
たゝ　ちつ　砂の　教のいさ　ある夫　あゝ　泳　物思ふ時のつぐ　ぐあ拾夫　さり　ぬる

古憲三　小町　家
うゝ　ぬる　恋ゝ　ま人を　ア　て　ゝり　寝て　ふ　ものハ　教　ゝめて　ま

亭　古本躬恒集
俊　履の　ゝ　ゝ　ゝん　桜　ゝ　ゝ　ゝ　ゝて　ゝ　ぬ　ゝ　ある

なゝぐ　江の

ゝ　ゆよ

第一已出
法華経のなかのあさぶかの袖のしぼりてあるよりもなし

逢

古憲三　家　敏行集　伊
あさくこそ袖をぬれぬ涙川身さへ流るるばかりなれば

続古憲二　業平
涙川　せき　続
水流るるなりのあるまじかりけるこそあれざるらん

法華経

古憲二　家
よるもなどのれてぞ涙川みも袖ぬるるまるかりけり

新拾憲二　家　亭
涙川のいかるなどのるらんなどこそひとけつよきのあれば

新勅憲三　人
いかどそうの物思ふ時のあるべかりけるかは袖はぬるる新

恋

古憲一　人
なるまぢかりみるせきあるとて涙まくるるまぢやみるむ



元真集
とるもあきはるるふるれしきに
いくかぐらのあるぐいづくん

前関白
新勅撰巻四
あるぐいづくんあるをを袖のせきるく
人のうきせのくちやまるん

序　家
あきるのるまるるるるるるるるるるの涙あるれいづくむ

古憲二　新万　家
きるるるるるるるるるる

源氏總角巻

[illegible]

新勅撰戀一　業平朝臣

[illegible]

源氏總角巻

[illegible]

人やり[illegible]

古今雜別　寵

[illegible]

同春下　小野小町

[illegible]

寛　新

[illegible]

伊勢集

[illegible]

河拍木小野小町

[illegible]

續後戀三

[illegible]

[illegible]

拾戀五

[illegible]

後雜二　土

[illegible]

古戀五

[illegible]

拾戀五　[illegible]

[illegible]

[illegible]

古今物名　たむらのりもち

花のもとにたびびとさそふ春かぜは
うへあるくそ法ゆえなりける

古今戀三　源宗于朝臣

あはなくてたゞにあけぬるあさまだきの月は
あがくやくをつくしとおもへど

金葉雜下　よみ人しらず

あるまとるまのあるうらうらうらうらは
やくんとあくこのあくしのあれくも

吉戀三　吉春集

たれのくそうあるけるたあどるあきでるさるまなくれど

後戀四　家

いるるもなくめきあ浦の宮より出てうへるもうくみつる武

友　名　或本

古戀五　家

うきあがくはけぬるあきくもはきぬほとはあくんあがれてくるみたのまれまくみ

同　同

くもあくあがきくるあのあがれやくくされてのくくもくあくん

拾雜戀つくやき　貫之集

玉藻こうる海士のあきうひさに棹のきくや人を恨ろくらむ　往來　拾

要　らく　或本

後戀二　家

ちくくくで無きあるうくうきあもくくくあくれば　そむくくく

[illegible]

古今戀一　よみ人しらず

[illegible]

契沖云此そへとゝの詞歌昭もいとおもしろし住せ[illegible]後撰さけそへとゝの詞副のまとてなきさへまとゝの詞あれどとおもふ[illegible]

手二集ホ

[illegible]

同　よみ人しらず

[illegible]

同　よみ人しらず

[illegible]

同　よみ人しらず

山家集

下同

古今春下

俊撰戀四

同戀三　平中興

下同

伊勢物語

書紀舒明紀云三年三月乙亥朔壬

攝津國有間温湯

玉葉一　代憲二　家

夫雜八温泉

同雜

古詳諸在原元方

同戀二友則　家

古詳諸　新撰　家

同允恭紀太子御歌ゝ於褒企渤島

志摩国波夫利云云

伊勢物語

同

同

同

同

同

後撰三　信明集

万十六　口傳　綺

万十一　古本人丸集

万葉十二

大夫之聘神毛今者無戀之奴爾吾者可死

顯昭經云以愛塵故受女人身世世生處或著諸色色壞汝眼為恩愛奴

莊子逍遥遊篇云藐姑射之山有神人中略莊子曰今子有大樹患其無用何不樹之於無何有鄉廣莫之野

植園翁云この万葉今の詞ゝくのぬくふくのさくありて字ゝハ無何有乃鄉とあり無むの依まそよとよむべきなり

人麿

契冲云延喜大嘗會式十一月卯日集人待門開乃發聲云ちはや人ハあををたてよどふ役あれど名まおふ役あるといふあり」

万葉十一
「待雨到者妹之懽跡咲顔乎往而早見」

同十二
「世間乎雨繁跡不念者君之手本乎不枕夜毛有寸」

陰陽式云諸時擊鼓子午各九下丑未八下寅申七下卯酉六下辰戌五下巳亥四下並平聲鐘依刻數」

万葉十一
朝柏閏八河邊之小竹之眼笑思而宿者夢所見來

万十一
ちはや人の名よおよ振ごゑいちじるくうぶあうさえまくたのまん

同
思いづまよいとぶ妹がこうれしとゑまんまびさおおもわゆるこの形

同 第五重出
かくもがらひん物をしおもふまで妹がたまくもまのぬ振もありき

同 夫雜十四鼓よくしば 古本全集
時ちはやちはやつづみ数られば たつまい舞ぬ ものやしも あひらぬあやしも

同 第二巳
大うふかぜしぬかくもうかるれ法門をもうう出ちんや

同 第五重出 き五
あさぐしふぬるやらぶ乃きのうえ人もあひなとぐ見ぬしぶちに

同四田部忌寸櫟子
つちまもうをあひちせる人をこそ恋のまきれいうろみしみ見く

同七 夫雜五海 古本人丸集
世の海は弱すこのまつみのうは寿ちの方
さらあるまもつのうち代夫
王憲五人丸 古本集
今も見ふ法もすまじ刈るまこぶれてのくそ恋ろる新

万十二 夫秋五萬よくしば
こぶくきの見ぬ萬葉を吸うて海の九ろをちひんと見ひ

近江

同四家持 同雜十八憶
ちちしぶさつくうたまで恋まで形ども妹ゑ寝ろ新

大寶積經普明菩薩會云心如怨家能與一切諸苦惱」

袋草紙卷四云
シジレスルイナリノヤマノモミチバノ 下同
是ハ和泉式部稲荷ヘマヰリケルニシグレノシケレバ道ニアヘリケル牛飼童ノ襁ヲヌギテキセタリケルヲカツギテウレシキコナリト云テヤミニケル後ニヨノ童式部カモトニ來リケレバナニゴトニナドダヅネケルニヨメル哥也」

拾遺戀二
ちくさの花はうきもとちのびしハさんばよつひはあらわれぬるこのされも洒をうもうら」

契冲云ふ人ハよう以下二首ともふかるの根ちどあるや解しぐ

いこそ恋ろをもとのるらまれんのあるをちふ行ぬりきを
ゆをちよのこきこきこきこときこきこきこきこときこきこきこときことこそこし
河夕顔
君よとうよよよとよとよと

新古今釈教　素覚法師

[illegible]

万葉五
多麻之末能許能可波加美爾伊返波阿礼騰吉美乎夜佐之美阿良波佐受阿利吉
真淵云そぎ板ハ殺板あり杉板ハあ〜ぬ

新古今戀一　坂上是則

そのあやふせやあたるもきぶ[illegible]
あり[illegible]てあらぬ[illegible]

續古今夏　中納言敦忠

[illegible]

後拾戀二

[illegible]

後拾遺戀一　源政成朝臣

[illegible]

後拾遺秋下友則　新万家　風体

[illegible]

古臺五友則

[illegible]

同詠諸[illegible]朗

[illegible]

万土　拾戀二　人丸集　そ万

[illegible]

夫夏　鄭公[illegible]

[illegible]

同二同

[illegible]

夫雅　[illegible]

[illegible]

[illegible]

是實難得」

拾遺戀四　よゝ人ちゝび

ふく風を空のふく論よこあつとも
ひとのこゝろをいぶたのまん」

新撰万葉

夏之風吾魁手本西被裏者思年人
之土毛丹芝手申」

同

夏之夜之露那駐曽藕葉之誠之玉
砥成芝果祢者

伊勢物語

ちゝはをけさでみとせはありぬゝも
いぶたのまん人のちゝ論を」

古今雜上　紫平朝臣

あらあらまぶきも月のかゝゝか
山のたゝあげていれずもあゝん」

和名抄牛馬類云孫恤曰駻比間反波祢無
萬突惡馬也」

重之集

まつへのうげはゝゝずて秋の長
月のひかりぞ神まいりめ」

伊勢物語

ふく風ふこぞのさゝはちずゝも
あゝさのゝぶゝ人のこゝろを」

毛のさゝまさねつくてるはつ形ぐゝも
そでのうちふ月の光をぶもゝを
ちゝずてさぞのさゝはありめゝも
もみぢ葉よ風をばつゝみめつゝを
たゞみ潘の波をばきづめとそつゝ芝
ふ波あるもゝふむとてはめきつゝを

あゝさゝふしまきさる　イ本ふきげ
ふ波ふべ一在本姓ふときさゝとふ

法苑珠林巻四十九云昔有梵志兄
弟四人皆得五通自知命促七日必
死我等兄弟神通自在中界移山住
虛無所不辨寧當不能避此難也」

雜阿含經巻卅九云欲以髮繞絲旋
轉於大石」

ふのゝのゝのゝいとゝのゝ倭本已上」

藝文類聚言語部詩云蝸角列州縣
鼎蹏建朝市

列子湯問篇云江浦之間生麻蟲其
名曰蟭螟群飛而集於蚊睫云」

まゝ蚊あゝくいゝ蚊字体ゝ似
ゝれば書紀なりけゝとのあやまりゝ

あゝゝ　あゝゝ　あつらゝゝ五葉九

詠浦嶋子長歌ホ　相逃良比言成之
賀宴云」

抱朴子論仙篇云無為握無形之風
捕難執之影」

万葉三　安貴王

伊勢海之奥津白波花爾欲得裏而
妹之家裏為」

散木集戀上

おもゝゝゝ

月上女經巻下偈云羅網可用縛猛風

本緣經毗羅摩品云如以網盛風是事甚難

尚書五子之歌云予臨兆民凜乎若打索之馭六馬

寛平后宮歌合

冬のうゝふりるゆゑや春なるらん
たゝもちあるこの花とさくらん

宇津保菊之宴巻云東宮をもとて
きゝもちあそび

敷あるぬ水ハのゝ上ゆれや
あるぶのよるふれどこゝ野き
ゆらんゝゝゝあきめくゆきあり
あてゝゝや

あはせゝゝゝ

[illegible]

古賀 [illegible] 伊勢集 新撰 [illegible] 伊

[illegible]

[illegible]

貫之

[illegible]

天雜九鶴 家

[illegible]

いせ

[illegible]

つゝみき

[illegible]

新古賀 家 貫之集

[illegible]

拾賀 家 朗

[illegible]

家

[illegible]

後賀 [illegible] 貫之集

[illegible]

家

[illegible]

此山風ハのうゝ貫之集ニ入延喜四年法皇六十法賀屏風十二首のうちのうゝあれどゝこゝと新古今ふ伊勢とあるハあやまりなり」

本文おもひのゝあり〻〻拾遺によりて心とあゝたむ

拾遺賀　九條右大臣

[illegible]

[illegible]

淮南子說山訓云千年之松下有茯苓上有兎絲

文集古調贈王山人詩云松樹千年朽槿花一日歇

拾遺雜上　貫之

[illegible]

[illegible]

和名抄巖石類云礫類云砂水中礫也和名以左古又類聚古

同

[illegible]

おもゝ人

[illegible]

同

[illegible]

おれゝ人

同

[illegible]

おもゝ人

同 [illegible] 家

[illegible]

おもゝ人

[illegible]

[illegible]

新古賀 伊勢 家

[illegible]

伊勢

土佐日記

[illegible]

夫雜九鶴　家

[illegible]

[illegible]

[illegible]

万葉三長歌

第三乃年緒長久住倉座之物乎 下畧

新古賀よろこび　続古賀よろこび　家　夫雜　書よ　家

ときはなる　新　第六重出

きさらぎとおもふ　新

かすみもて　兵部大輔平篤行男

万代をけふとこそとこのぞふきば　結さるるきこえがほ代の松

仲麻呂

新古賀貫之　家　貫之集

たえもせぬ　貫

ふかきをば　貫伊

ふかくこそ生そふ井のよもすがらつぬそを汲とるもそこ

八新貫伊

続後賀よろこび

る続

みやゐ世ゝ　ちよをうぐふる　数とあすもむ

第三出

つゝゆき

松のよそふりつゝそをあしたづのゐ中よりとぶとこそ見

ゐ

夫秋三節花　童

袖ふるあり

夫童

て

夫

春の日の

つゝゆき

雜三貫き

玉

春のうちよりちらつゝぬ松のこゝろ久しきゝ人法よりすゝ年

玉

玉河忠峯　夫雜八隣

世の中よりの代てふこゝろ

春の日のいとこそ見ふ時なる世の中よりの代てふこゝろ

春　こく　武庫出家

家

さくらぎ　ちりぬ　ちぐでさてある蔭の花ぐもちよりのよそひのぶ

同

吹風もあらぬ見ひて　家

ゆは　家

同

きゝと　松くもきの　家

同

打まとふあぢさゐ　たてる　苔田　打ハ　ちよ　家

政事要畧第廿七十一月節會條云

五節舞者淳御原天皇之所制也云云

挙袖五度鼓謂之五節其歌曰

乎度綿度茂邑度綿左備須茂可良

多万乎多茂度迩麻波底乎度綿左

備須茂

伊勢集

たのゝつ　こゝろ　ゆ　松の　ちよ

ふ代てふこゝろあらぬぞあらる

拾賀貫之家

[illegible]

貫之集

[illegible]

同 夫雜二山貫之

[illegible]

同 山城 新古賀

[illegible]

同

[illegible]

同

[illegible]

續後賀清原元輔家卅

[illegible]

貫之集

[illegible]

同

[illegible]

同

[illegible]

佛說弟子死復生經當一云恒水邊流沙尚可斗量盡知其斗數佛恩不可得量也

此うた續後撰ホ元輔とのせられる

あやまりなるべし 他ハ三条 伊勢と

同

[illegible]

同

[illegible]

同

[illegible]

同

[illegible]

同 拾雜者

[illegible]

後賀

[illegible]

後撰雜二 枇杷左大臣

[illegible]

いせ 或本

[illegible]

同

[illegible]

同

[illegible]

同

[illegible]

同

[illegible]

後賀

[illegible]

みつね 或本

[illegible]

契沖云ヒロなの野まの秋みもゆ
うど隠ふいもひよつむものあれば松
菊ぞのうらもおのれどもぎと
野をたづねてこそ

朗恒集
秋の野ふ花をたづねばたづねばに
もとめてこそ見ねるけるうか

新勅撰賀　實方朝臣
枝ちかく春の来ぬれば花ふまつ
いのるこころを神ぞしるらん

後拾遺賀　源順
けふとてもむすぶ
ちとせのまふあいんちぎり城

夫秋五菊　家
こゝろのうる菊の中ある花たづねらくらびのちよをこそふらん

伊勢

けふ
ちとせよ

新古賀　家
ちとせ経る松ぞ
ちとせのべなるゆたあ万代をあてつまんとぞ思ふ

おれど
く

占賀　家　新撰
大和
ちとせ経る松をよわの家橋つ万代を祈ぞ
いせ　或本

家
かもぐ松にの家
たち家
ちとせ
ちとせのまふあつむぞよ
ち家
ちとせ　或本



同
ちとせの振神ちとせ家
ちとせよ見ぐあつむ春日の松のちとせ

新恒

夫春一　家
ちとせ経ぬ松をこそ
ちとせ家
ちとせ経たあう松ぞ
と夫
袖よ
さと夫
くさ家
ちとせ

貫之集
ちとせ経る松のちとせ葉もとれをいのちん
経るよつむ物
たる貫
あちなくん

いせ

拾賀　家
ちとせの松のとの松あるぬどの見ぐたあ春の数をつまんとぞ
ちとせ
ちとせ
ちとせ経る松をわのちとせ経たあよぞ

後春上　古本集
ちとせの野よ心をぶるもやぬ
ぬ
ちとせ松はつまで春と社法め

夏　こ

万葉八
霍公鳥鳴之登時君之家兩往跡追者將至鴨
大神女郎

家
ちとせたづんちとせ
ちぶちとせよ見ぐあちとせ揚ぐちとせ

法皇

続後神祇 よしみねの忠岑 吉野の山をさすらへて

中続 さうき続 ちつるるうゑきの杖を杖とはきやまとたく

大雑七翁 よしみねの忠岑 ふるゆきの山のつるはふ人のもとめいのりよきれる杖なり

ふるゆきをへてふりつもるゆきれ杖つきて花のあるうとうとるよりもうゑ

古賀遍昭 家 ちはやふる神やきりんつくらんちはやの杖もあらぬべしとや

ゆふかみの思をたあはしてふるゆきをかぶれちはやまつの杖

本ノマヽ きんもと 或本よりもと 或本のくさ正 頼基ハ肥後守 輔道男

拾賀頼基 家 サ ひとつよりあまたをとあるれば杖なれつくともはきごろがよろひよ

ぶ 拾家 かざし

古賀 立ちかへれば有まづ咲 梅はなるるがうときはものざしとぞ

万十 新十 春下 よしみねの忠岑 夫春六藤花人丸 雲春下赤人 家持集 赤人集 かき表紙 ハ雲 このたびの蔦ハ子ぬ行 このをるみのうちに人の折てかざしん



古今長歌 伊勢

上畢 あしぶの色のくれなゐハ日れくが中の時あるてえと

拾遺神樂 うまの五 名のたてるよしだの里の杖なれば つくともはきごろがよろひよ

かすが野の歌万葉ニハ作者不知 人丸 赤人 家ど名を書せるもくなな



古今雑上 よしみねの忠岑 ふたつのつぎふさせるあとよ あるべきもてゆくるあたぢーま山

万九 伊 妹がまをとりてひきよせうちたをるあらざにべきこれ咲るこのも

ちかと伊 ちるこのかざしふさしていちふもるるがあるのハちをまざりきり

くみせらのるるこのかざしよもまれバうの杖より花ぞ有ける

くろづよとくとうとうとう

夫木夏　橘　　太宰大貳高遠

たちばなの立さうえるうてゝかう
このあり出るけはあへるこの

家　を家　とや家　たのまれぞこのあり出べきこゝ家　家　家

かざしとも花咲やどハたのまれぞこのあり出べきこゝ家　家　家

左中将藤原敏行男

さつきひら

後撰戀一　よゝ人ちゝぶ

わりなきちばらあゝきものとやゝらど
うゝろやもくもおもほゆるうふ

後賀　とおもうれぬ白ぎくを後

つゆ代のともてうきせぬ白ぎくゝふらゝろやもくもかざゝつゝふ

万九間人宿祢　新十意抽　の万新　ひと万新

ひなびゝちあざゝのまへ妻らみとこぶれすゝゝはこのはさに

夫秋一七夕　又雜六河

紀友則

古秋下

あゝ秋てくゝんの菊の花きぬ秋の久ゝこゝぐく

二條左大臣　或本三條のおほの　そこらさん　ぎうちきゝ

続後賀三條左大臣

法たのあとあゝぎきをまで旬ゝんとぶゝみきとゝ見よまあゝ

万十　家特集　赤人集　させる赤　の万

ひとのかざゝ梅の香を吹ゝぶる風やゝ妹ゝ梅のゝゝくゝん

別

古離別幽仙法師　新撰　やま古新

ゝゝれきば峯の櫻ゝゝまをてんゝゝあんゝゝあゝハまのまゝく



新拾遺夏　　貫之

月をゝぶふあゝずおもひて初めゝを
ゝゝきゝきへゝゝゝゝゝゝ

古今離別　　紀友則

かへゝ山あゝゝハきけど来ゝゝみ
たゝゝゝゝれるゝゝ来ゝゝゝゝ」

拾遺春　　よゝ人ちゝば

さゝゝゝをまゝゝみハほゝゝゝめゝ
ゝゝゝゝゝ花ゝゝゝ

貫之集　　きゝゝゝゝゝゝゝ貫

ゝゝゝゝゝゝゝ

家
[illegible]
続後拾離別 新後拾離別 家
[illegible]

信濃
[illegible]

夢 こ 或本

新古離別 家
[illegible]

玉葉 夫雜八夢 家
[illegible]

[illegible]

つゝゆき

古爵旅 拾別 家
[illegible]

源
[illegible]

家
[illegible]

同
[illegible]

同
[illegible]

風旅 家
[illegible]

源氏総角巻云もゝしきの大将はこゝにはかなくなりたまへりとのたまふをきゝたまふに[illegible]
家長日記云此世のわたりにはかなくなりたまへりとのたまふをきゝたまふに[illegible]
[illegible]
徒然草云[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]



[illegible]
[illegible]
[illegible]

業平

伊
[illegible]

続後恋三 代雜四 家 伊業平
[illegible]

後離別 家
[illegible]

同哀傷 家 古本兼輔集
[illegible]

古離別 新撰大 金玉 朝
[illegible]

同雜下 新撰
[illegible]

たゝむら

万四安倍朝臣奥麿 続後拾離別
[illegible]

同 丹比真人笠麿 万続
[illegible]

此うた七首先のおくれあてこひつ
あ〜ずへとあるを二〜〜とすべ〜

真淵云此おもよりとのうた拾遺ま
人丸とありされど万葉ま人丸
妻のうたうたれ

万葉四
不相念人乎也本名白紐之袖漬左
右二哭耳四泣裳

山口女王

推本ようすとあるようろ〜きうた
てまたいうぶん

白雪の行よりまる〜〜〜

告遣之何如告寸八」

真淵云このうたうれどうるはまこの
歌のうへ〜あるべ〜
ちうけ云ふ詳推本ふるけのと
あくあ歌の底といひけるを詞を」

素性集

百ぐりもたりとあきかぜとなりぬべ〜
たえぬあるべきかぬべけれど」

拾遺の作者は源兼澄とふ人あり
それ歌或本ありけるをけしふあれど兼
澄集ふ〜〜べし

俊頼口傳上ふ長ハ惟言のこゝろの月
夜ふあるをびあひるが月とサネ入
ふんとうられば業平ゆかりのある事
ゆうといはれるハ山のそあびての歌と
ふとおもひたがへられるあるべ〜

古事記成務天皇記云更取国之大
奴佐而奴佐二字以音

管子国蓄篇云以珠玉為上幣以黄
金為中幣以刀布為下幣」

新万 ちるとあきかぜとなりぬべ〜 そでも新

やまぬべき新 ちりつて新

花ちてんあの球 るべくれば新

風云うへハ浪よりそぼちつ きるひめぐもあれゆるう飛

わのれてハ初ほくの山をぐつも 亦〜よ形〜雲よりそ〜め

かぶ新ぎ〜 或本ふぬきけ

拾遺の作者ふ源兼澄とふ人あり
それ歌或本ありけるをけしふあれど兼
澄集ふ〜〜べし

河原院の長 嵯峨帝皇子

俊雑一 口傳

月をまきちのつまよりみてなぐさ人をつぶぐん

行平の中納言

同

ぬぎうあき見ひの法ふれ ぬぐふ後 ふぐ〜後 ふぐ〜後 ふぐ〜後 ふぐ〜後

ぬさと

万四上師宿称水通 童 夫雑十四

ちるやふる神の社よ ぬさ八たまく〜ん天 ぬさ八たまく〜ん天 ぬさ八たまく〜ん天 ぬさ八たまく〜ん天 童



真淵云此哥ハ万の哥の次なるべき歌
書紀雄略紀云螺蠃此云須我屢云
和名抄蟲多類云兩雅注云蠐螬和名
駢曾似蜂而細腰者也兼名苑云一
名螺蠃和名抄ふかくのこと注して
ぐるとふ和名を出さず万葉九長
歌ふ腰細之須賀姫子之其姿之端
正爾云云もよりくさるを後世を
がるを康ありといへるハうそふあるき
狂説あり」

土佐日記ふちふの神とある云〜
神中抄巻十九に顕昭云ちふの神
ハ道ありの神とふ事ふや海後ふ
もとう懲ふまこと知夫利島と
いふ所ふ神ハ神ふ事祭りて
ありふ出ぬ〜ハ神ふ事祭りて
ちうとうとこそ中ハそれと本体
そ陸と海ともそをいめる神をち
ふうの神とをづけ〜るまや
真淵云道反神道守神おどふ
これハ道綱神あるべ〜ひるひこう
の神といふこゝろ〜
拾遺悪草中
山ゐのあ神めさのおひ風ふまちね

古離 ちるとあきかぜとなりぬべ〜

万十三長歌 夫雑十四 ぬ万

ひとまつて

新十 羇旅 土 ふる土

ちるとあきかぜとなりぬべ〜

新勅冬 家 ふるちをとをめさ

夫雑十四後麻 家 ちるめさの

同大旅 家 神 ふるぬ家

夫雑十四後麻 家 ちるめさの

後離別大補 ちるとあきかぜとなりぬべ〜

ちひろの海よ　紅のもゝぐち染
万葉十五　中臣朝臣宅守
加思故美　奈能良　安安里思　乎美故
之治能多　武　奈良　爾多知豆　伊毛我名
能里都
三代實録陽成天皇紀云元慶二年
五月八日癸卯授越中國正六位上
手向神從五位下
和名抄神靈類云道神　加乃加美
河海抄蓬生卷云手向の神とは道祖
神のことゝ羈旅の人めさるゝ下の物を
送るハ此神のたゝりなりのゆゑ
書紀神代紀云大巳貴命今我當於
百不足八十隈將隱去矣

## たむけ

万三刑部垂麿
もゝたるまでやそすゝはらよもむけまくるゆく人よさけあらんうも
今ハとていほへでまくるさうぢよ　手向の神ふ　麻たまいくん
万十二　夫雜四森人麿
ゆ　ゆ　氏　岩田の森よんおそくも　向　あられば万夫イ　てで　嬬よみまぐるも
夫雜十六神祇よくへば　夫
きくもをもふるもをでくもあべきたむけの神もいろはおもいくん
古羈旅　普家　新撰
ゆくもびハめさもうあへぞ　向　山　あるまの　幣　神のまに〳〵
貫之集　夫雜六旅
たまぐらのゆ　向の神もゆるくゝ　ゆ　思ふ　ゆ　を　ゆ　て　ゆ　思ふ

つゝゆきこゝ

続十羈旅　夫雜二山よくへば　家
ゆ　ゆ　ゆ　

時雨ふるあき深ぬれどくきくやゆうこん日はつゆうく
童たまきはる命よもふふ系せきはいるせ〜こう旅ゆくらを
万四右列足人てる枕の形もたすみよ系の枕たびゆくるが赤よいるまで
貫之集人もこなきをゆみどくき枕此くびさうこ〜き旅ふ〜
同まぐれの系の枕まるてるこふる涙の家で養まさうるる
古歌新旅このは新撰家くくるてうゆく新撰家
きさもも〜古新家
東伊勢集
まるこのる旅〜たるふがるまくこ家けくくんと思ざうを

後鳥羽家
系の枕たびゆくこの山はよふ白雲ぬ分もやどりけう
後家

いせ

同雜三家大遍照集新朝
いたのよる旅ぬまれば〜苔のこひまぐ〜さわ
衣をうれおそ家後象遍大朝

小町



万葉四
無間戀爾可有年草枕客有公之夢
爾之所見
〇はかなさよ人もあきのこ〜ハまくく此
万葉のを誤りたるべきなるべし

東人妻

第三巳山
白妙はたふぢの浦はあさりする海のまくらこ〜旅ゆくられ我
新勅撰旅葉平朝臣伊第五重田
まくくてつる〜ともきぐ枕のよるごとたのまれあくに
〇〜みつるの枕ハせざくとも思ふんどもの旅ゆ〜へぬ夢〜
人もあるき旅ゆやあくんこき枕たびあるるぐ家ふくるこ
きのふきてちるひ斗をたびこいくにへゆくこ袖をむつくん
万十赤人集
枕はたちくきまを自おくふる旅ゆやるをいわりをくるむ
朝恒集
系風のふまぬと思ハ出てらいいぐちのくこハ出てこりけ
朝

かなしひ

紀齊明天皇御製紀
ゆくゆくの川のやむ時もなくおもふ恋のこ
万三家持
うつくしくこの世ハ常ものと考る和を松風空く生るけるこの形
同
妹とあるてふくつくし系ハ出てくきぐく生るる形
万

万葉三
打背見之世乃事爾在者外爾見之
山矢耶今者因香止思波年

万二家持　新古秋下　大伴坂上郎女　家
[illegible]
同　家
さほやまの　柳の末に　鶯の　なきぬべ[illegible]　新家
同六伴三中　家持集
[illegible]
同大伴書持　大伴坂上郎女
[illegible]
同三中　家持集
いつ[illegible]
同家持
[illegible]
同二石川夫人　夫雑二山
さ[illegible]
同九
[illegible]
同十
[illegible]
同十一人九　家し家
[illegible]
同　拾哀傷人九　家　家持集
[illegible]

契沖云此きのふらそとは奏勾きのふこそ苗とは[illegible]きのふこそ[illegible]ハ[illegible]れとあるとよめるにハ[illegible]ば安[illegible]ずきのふまでこそ世に在[illegible]のこそ西行の[illegible]をいでゝ[illegible]ふおくりけん[illegible]きのふ世人も[illegible]ハ[illegible]きよもとよめる是なり

書紀應神紀云五年八月令諸國定海人及山守部云云

万葉九
天原雲無夕爾烏玉之宵渡月乃入巻懐毛

同河邊宮人
[illegible]

契沖云かゝる山万葉に鴨山とあり拾遺に[illegible]山とあり諸名所集に未勘とあれ[illegible]ども定めがたし但万葉の端作に柿本人麿在石見國臨死時自傷作歌とあれば鴨山石見に可考

同　拾哀傷　家
おきつ波よる[illegible]
同　同
かゝる山の[illegible]
同　夫雑二山　人九集
[illegible]
同七
[illegible]
代雑三
[illegible]
古哀傷　異本家集　新撰
[illegible]
万二人九　拾雑三　家
[illegible]

人丸

[illegible]

家
[illegible]

家
[illegible]
同 [illegible] 後哀傷 拾哀傷
[illegible]
新拾哀傷 家 き家
[illegible]
古哀傷 拾哀傷 家
[illegible]
拾哀傷 朗 家
[illegible]
新後拾雜下 家
[illegible]
第二已出
[illegible]
古哀傷 拾哀傷 新撰 家
[illegible]
第一已出
[illegible]
新勅雜三
[illegible]

以上

契冲云周處風土記ニ除夜祭其先祖ト云ヘリ枕草紙モ年の終の夕[illegible]

金剛般若經云一切有為法如夢幻泡影

後撰雜一　蟬丸

[illegible]

此[illegible]の下句法華經の櫛引にけりとありこハ忘けんとみゝをふと出侯れるあるべしさあらぬてふをいふなり

新勅雜三　中納言兼輔

[illegible]

下同

大和物語ニさきふほふとあり

續古哀傷　貫之集

[illegible]

家

[illegible]

續後雜下　代雜五　家　貫之集

[illegible]

加祢吉ケ或本

[illegible]

家

[illegible]

[illegible]

[illegible]家

[illegible]

[illegible]

古哀傷　新撰　家　由古家

[illegible]

[illegible]

[illegible]

此そでめの白ちゝぬるまでひて書
たべくるふとうてこびこゝを或
人宮庫の法本をてこへてうつせ
まとゝよまゝうらびゝやうそ
あり

法ゝ西き

家 いそのとふるく任こゝる形くて山の嶽は生石まつら年
うへ

こつ多

続後雑下 古本家 貫之集 ぬゝ続
ふるくてふるの山べの雪あいこづゝこそたちぬるゝ

新千載 続

夏 こ

家 うゝそるきと分こそすあれ石上ふるき名ゝきぬるゝそみそる
きゝ家

たづこゝま みこそ

拾遺雑秋 よゝ人ゝゝべ
よもそうゝて日ゝがかゝいゝたふぞこの
なゝゝべの面はもゝやあるゝん

古哀傷 拾哀傷よゝゝゝべ 貫之集 きゝゝうる 拾貫
ゝ色ゝそつゝる紅ふは わゝゝ人の涙乃玉は落ゝそ たゝりけ歌

家 ぬるゝうちよゝこるそこの〜やゝ若ゝふ古家 そゝもゝ歌ゝふゝべ
同 同 拾哀傷よゝゝゝべ
つゝ墨涙の玉ゝゝたゝゝふゝ玉まれや落ゝぞ涙の玉ゝの〜 拾 ふゝふ
ころめそで

同 同 まれ古家
ゝゝきゝゝまれ あゝゝ人ゝよゝゝる〜きゝさゝるゝ拾ゝ古家 ゝを

此ゝゝ〜ゝさゝなゝくゝふゝゝゝゝゝゝ五ゝゝ
あゝるゝずゝあゝゝべゝゝ三河の五ゝゝと伊
ゝてゝゝゝゝ四ゝゝのゝゝゝゝ一首あゝち
ゝゝゝふゝといゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ考ゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

宝物集第二云ふ本ゝ多しといへども物のなりたちをたれべてそこの
まゝの事ばをさたるもとゝえく

貫之集

いろもかも むちしのこさぬにほへども
下同

古哀傷上野峯雄

[illegible]

同 紀望行 新撰 伊

[illegible]

万七 夫秋六 [illegible]

[illegible]

河初 [illegible]

[illegible]

[illegible]

古哀傷閑院五皇子 新撰

[illegible]

万三 高橋朝臣

[illegible]

古哀傷 [illegible]

[illegible]

契沖云詞を書つゞけるを長歌
一三十一文字のを短歌とする
又六句一文字を古今と千載に
也歌を短歌と摂州一ようの長倫
さゝみ〳〵あれいこるふたゝび万葉巻
五に老身重病経年辛苦及思兒等
歌十首短六首とゝゝて也歌一そ
三十一字の歌六そありこれ山上憶良
の自注あれば短とするまたれり又
長歌七そとある七そ九の字のあや
まれるか也そ九そあり伝長字
抵て和歌四千六百九十六そ世中
也歌九そ世ようの十七首とゝも

同 貫之 家朝卿

[illegible]

まさ古家

長歌 七そ

[illegible]

後哀傷

[illegible]

開院 冬嗣公也

[illegible]

右大臣藤原内麿男

万四 卑三香原離宮之時得娘子作歌

[illegible]

山城

[illegible]

[illegible]

史記大宛列傳賛云昆崙其高二十五百餘里日月所相避光明所相隠也」

古事記垂仁天皇記云 又天皇以三宅連等祖名多遅摩毛理遣常世國令求登岐士玖能迦玖玖能木實云云

万葉六　笠朝臣金村

瀧上之御舟乃山爾水枝指四時爾生有刀我乃樹能弥継嗣爾萬代如是二二知三云云

同三　丹比真人國人

儕立乃見果石山跡神代從人之言嗣云云

万三　登神岳山歌

ふじ　なを　つ　ま　を　そ　て　　山のべのあろ人

あをつちの　そのれ　世とう　かうさびて　言ふくりこき

さるこの　ほる　ゆ　ふじ　言る　松ハ　あまの　ふ　ふりさけ　これぬ

つ　まれ　ほ　の　び　も　かく　ま　て　雪　ま　ま　と　み　で　ま　う

そ　の　ゆ　ま　う　で　う　ま　ま　ま　ま　で　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ふ　る　き　ま　そ　て　ま　る　　ひの人

万三　登神岳山歌

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま



契沖云長歌のうちいさらみどりき

ちりぬ小長歌のたぐひなり」

万葉四　岳本天皇御製

神代從生經來者人多國爾爲爲而味村乃去來者行跡吾戀流君爾不有者夜渡日乃久流留麻豆夜者夜乃明流寸食念乍寐宿難爾登阿可思邇良久茂長此夜乎

同十一

吾妹子爾相縁乎無駿河有不盡乃高嶺之燒管香將有

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

万十三

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

古雜体

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

万葉四　中臣女郎

海底奥辛深日手吾忘有君二度將相年者經十方

和名抄飯餅類云楊氏漢語抄云結果形如結緒此間稱之和名加久乃阿和

江家次第七日節會次第云其菓子唐菓子二杯加久縄一杯

[illegible]

[illegible]

[illegible]

万葉二十　大伴家持

八千種爾久佐奇乎宇恵弖等伎其等爾佐加牟波奈乎之見都追思努波奈」

催馬樂　伊勢海

伊勢乃宇美支与支名支佐尓之保加比尓奈乃利曽也川末牟加比也比呂波牟多末也比呂波牟

拾遺戀四　よみ人しらず

いなのやいなのめまれいなのようてちひしきをしらんこん

古雜体　家

それ仏よりのふるまと。あるうきぶ。いろ行のほのいのみ。ふ。ふる。まつ。ほ。ま。ま。ふ。人。ま。ま。ま

佛足石歌云已乃美阿止夜與豆比
賀利乎波奈知伊太志云云
此やうひろハおゝくの考りとゝ義
あるべしさゝばこゝのやとと三つく
朗詠云太公望之遇周文渭濱之波
疊面綺里季之輔漢惠高山之月垂
眉

列子湯問篇云五曰蓬萊其山高下
周旋三万里云云華實皆有滋味食
之皆不老不死
出雲國造神賀詞云弥若叡尓若叡
坐云云



後撰冬
神なづきふるさゝがにのあきぎ
ちぐれぞ冬のもみぢなりける

古今目録云七條后者昭宣公三女
諱温子宇多天皇后云云延喜七年
六月八日崩三十六
後撰雜四　伊勢
いせのうみにあまのつりをするあきあれど
かゝるみるめはうづのさうしを
齋宮女御集
あさぼらけくらゐねあかしたるあまよりも
ひるがたのうらにぞ物もゝうとの
毛詩國風小弁篇云譬彼舟流不知
所屆心之憂矣不遑假寐

うちぎ古
ちぢのいろ
那よ山の心あらし　おろ家
西けだものをとけく　おきもさむく日ぞとる　なのり
ちぢのいろ　ちぢのいろ　ちぢのいろ
つもりてあらし　ゆく家　おほく家
七條后うせたまひてのち
伊勢
古雜体　家
おきつ波あれのゝ堤　ゆのうちハ　まへて
いせのあまも　みなのゝ　ちてよゝんとたく
このゝきふ　なごのうらに　れまるハ　ぶなこの

信明集

ふるさとの梢はもみぢ初てを
おのゝちり〳〵あるぞうびき

奥義抄下云旋頭ハ上より〳〵るとよむ
あり普通の義なり故に演成式
の所にあるふとゝ雙本と名づくこれ本
にあるふとゝへバ普ふかへる義ハ同
じ〻と契沖云此注あゝはたゞあ〜
躬恒集赤人集ハかうべをめぐらを
うとゝ〻〻るゝ〻て普ふかへる
義ハあゝ上下各三句あれバ句
のうとゝもいふ故に上の句を本と〜
下の句を末〜てまゝ本まあふ
ふよりて雙本とハいふべき又万葉を
ちゞめふ〳〵ハ五七〻を上と〜五
七〻を下とすさてこそ所をめぐ〜
をとゝもいふべれ末の集ハ五七五七〻
と三十六字のうとゝハ句法をあ

万七 夫木三鷹狩 大伴家持
ひさかたの大よびこてとのうす君まち山の峯おきふべよてやきめとゝ君
古 躬恒集 夫
うちはらをとゝ方人よ物まもと家ナシ家そのそこよ向く咲ゝ人仁のゝうあでも
あこそうの家

このへ

古 のべハ古
まちバまづ咲こゝれどあぬ君まひ待るわ行ゝ君のあくわや
万十 新十春上九 夫雜三 赤人集
ふるぐあるこゝ君ゝ方ゝ山よ有も出めゝ新十もさ知ふ山ハ咲ゝ新の新 也方 やしゝん新
同十三 赤の ハ新
三吉野のよゝ隔も方ナシ方ゝ山ゝ君ゝ方ゝ白波とまゝ方ゝ妹をゝ君ゝ方ゝ山ゝ君ゝ波



やまとうゝやいちん

万葉十二
如此為而曾人之死云藤波乃直一目耳見之人故爾

同八
皇之御笠乃山能黄葉今日之鐘礼爾散香過奈年

新勅撰 釋教 蓮生法師
法の世をてゝそ殺のゝみを
きゝぬ君ゝあふひもみゝ

源氏玉鬘巻
ふゝもゝの杉のゝちゝをたゞすゝ
ぬゝるゝハのゝゝる君を見ゝゝや

万葉十
梓弓引津邊有莫告藤之花咲及二不會君哉

同十
きゝゝゝ家ゝ君ゝ方ゝ
同
ちゝの春ほゝ出ぬ君を我ゝる方かげろひ方のたゞひゝあゝゝ人あに

躬恒集
古 ゝゝもゝゝゝの山ゝもゝゝゝ神ゝ月時ゝ日ゝ躬ゝあゝのゝゝあゝゝ

賀うゝ

みゝ所

拾 家朗
まゝ殺ゝ君ゝ向ひをゝ人ゝ何ゝゝゝ君ゝ殺ゝ君ゝあゝゝちゝすゝ
家
ゝゝ木ゝゝゝ

契冲云和名抄ニ丹後國竹野郡紺野とよぶあり〻〻ふいふ入野き
ち〻ゑ可考
毛詩國風葛覃篇云葛之覃兮施于
中谷維葉莫〻是刈是濩爲絺爲綌
服之無斁

万七
たちぬ者りさやさ入郡江
ひくとぎるこさ袖をきせんと万
ナシ万
同
漢なる苦のとりをもたをり万
千五百七十五万
うま万
あ〻せこゝふる袖をうんとこれぞたをり〻
て万
同
夫雜七濱人丸
住吉のいでるの濱を老どもとりそをめてる赤もちまひきぬれてもうんとこ
ちが万
のなをの万